



題字：川上早苗

NPO さんまクラブ

ニュースレター



編集：廣田夏実
発行責任：谷村徳幸

左上) 2016年5月21日 土曜さんまクラブ「光る泥だんご」より 右) 放課後さんまクラブより
左中) 2016年4月9日 土曜さんまクラブ「ホットケーキタワー」より
左下) 2016年4月16日 土曜さんまクラブ「さんまハウスの看板を作ろう」より

巻頭言

「みんなが笑顔になるおうち」

理事長 谷村徳幸

このニューレターが発行される頃には、参院選の結果が明らかになっているはずですが、ある政治学者が選挙前に「一応『自由で公正な国政選挙』が行なわれるのは、この選挙が最後となるかもしれない」と日本の状況に対して危機感をもって警告していました。昨日（6月22日）、参院選が公示されましたが、その警告がはずれる選挙結果になっていることを願うばかりです。

このまま現政権（安倍政権）に政治を任せておくと“子どもたちのいのちが危ない”“平和が壊されてしまう”と思い、止むに止まれず、還暦を過ぎて人生初めて選挙というものにほんの少しだけ関わらせてもらいました。

その関連の取り組みだったのですが、5月にお二人の著名な学者さんの話を2日連続で聞く機会がありました。僕は仕事柄、喋る／喋られることが多くて、最近では、自分のことを自嘲気味に、顎しか動かすことのできない「アゴ師」と呼んでいます。そんな僕にとっては2日連続の講演会は、人様の話をじっくり聞きたい機会でした。

ひとは、教育学者の尾木ママこと尾木直樹さん。オネエ（オバア？）キャラになる前の尾木さんの新書には刺激を受けて読んだことを覚えています。いつかまとまった話を聞きたいと思っていましたが、マスコミにさらされるようになってからは、その気が失せてしまっていたところでした。次の日は講談師のような語り口で「アベノミクスはアホノミクス！」とぶった斬る経済学者の浜矩子さん。浜さんには僕らの仲間がこれまでも何回もお声をおかけし、講演会を実現したこともあったのですが、僕自身はお話を聞くチャンスを逸しておりました。お二人とも、人を惹きつけるツボ

を押さえた分かりやすいお話でした。アゴだけが無駄に動いている僕とは全く違います。久々に人の話しをまとめて聞いて少し落ち込みました。

落ち込みましたが、2日連続の講演に共通した結論があることに、僕は驚きと同時に安堵と元気をもらいました。打合せなしで教育学者と経済学者が別の切り口・テーマで話して、今の時代で大切なこと（求められること）として「共感」をキーワードにして語られました。尾木ママは、教育、子育ての場で、心で語り、共感することが大切であると強調されました。浜さんは、人に幸せをもたらす経済活動をするために肝要な三つのツール（傾ける耳・涙する目・差し伸べる手）をあげて、これも「共感」することを重要視して語られました。お二人とも今の政権に欠けているものとして語られていたようです。専門が全く違う二人が、期せずして同じ結論を語られたことに、僕は意を強くしました。「さんまクラブ」で自分たちが実践していることに通底していると思ったからです。

過去のニュースレターの書評欄で紹介した『私は戦争のない世界を望む』（アルノ・グリューン）でも「共感」を強調しています。著者は90歳を過ぎた精神分析医ですが、その専門分野からも「共感」の大切さを言っています。特に子ども時代に「共感」経験をつみ重ねていく重要性を伝えています。「戦争の反対は共感」だということです。妙な命題ですが、言い得ています。最近ある本の帯に「平和の反対はペテン」と書いてあるのも見ました。事実や事柄をごまかし、嘘つきでペテン師！！弱く小さくされた“いのち”に共感できない！！イコール戦争仕掛け人！！同じ人物をイメージしてしまうのは僕だけでしょうか。

法人発足当初の若者の内、二人が巣立ち、4月からは新生さんまクラブとなって生まれ変わりました。その新生さんまクラブで、新たなスタッフと始めに行なったことがキャッチフレーズ（年間テーマ？）づくりでした。結構な時間をかけて話し合いました。結果、「みんなが笑顔になるおうち」に決定しました。手前味噌ですが、素敵だと思います。いいと思います。個人的には「おうち」を「居場所」にしたかったのですが、子どもがわかるものということで「おうち」に落ち着きました。「共感」という概念も「みんなが笑顔になる」という表現で子どもも具体的にわかると思います。「戦争の反対はみんなが笑顔」と言えます。一人だけが高笑いするような世の中であってはなりません。スリランカ出身の社会学者“にしゃんた”さんは、多様性を認め合う社会の形成に大切に必要なこととして「共笑」（ともえ）をあげているようです。「みんなが笑顔になるおうち」は、さんまクラブが目指している「インクルーシブ（内包的）社会」をも表現しているテーマだと自負しています。

今年度はすでにスタートしていますが、「みんなが笑顔になるおうち」を目指してスタッフ一同子どもと共に張り切っています。財政的には厳しいものがありますが、行政に働きかけるなど色々な工夫をしながら笑顔で運営しております。平和のため、みんなが笑顔になるために当さんまクラブをご理解いただき、あと少しのご支援を賜りますようによろしく申し上げます。

7月10日にどんな選挙結果が出ていようとも、どんな時代になろうとも、倦まず弛まず、みんなが笑顔になるために、老若男女、地域の方々と共に、さんまクラブは前進していきます。重ね重ねよろしく申し上げます。

連載 「居場所」を考える ～第7回～

—ありのままでいられるために—

堀江有里

【信仰とセクシュアリティを考えるキリスト者の会 (ECQA) 代表。専攻は社会学、フェミニズム、クィア神学】

■LGBT の置かれた現状

今日は、わたし自身の活動から「居場所」について考えたいと思います。1994年から信仰とセクシュアリティを考えるキリスト者の会 (ECQA) という団体で、性的少数者の相談にかかわってきました。最近、マスメディアでも取り上げられることが多くなった「LGBT」という言葉。レズビアン (女性同性愛者)、ゲイ (男性同性愛者)、バイセクシュアル (両性愛者)、トランスジェンダー (性別越境者) の頭文字をとったものです。レズビアンやゲイは性的指向 (性意識の向く方向) が同性に向いている人たち、バイセクシュアルは両性に向いている、あるいは相手の性別にはこだわりのない人たちです。ただ、相手の性別に影響されない人たちと表現したほうが適切かもしれません。トランスジェンダーは、からだの性別と性自認 (自分の性別の認識) が一致していない人たちです。性的少数者は、ひとくくりにされることが多いのですが、「LGB」は性的指向をめぐる少数者、「T」は性自認をめぐる少数者です。トランスジェンダーのうち、もう少し狭い範囲を示す「性同一性障害」という医療で使われる言葉のほうが知られているかもしれません。

ちなみに、世の中には「あたりまえ」だと思われる存在は名前が呼ばれないことが多くあります。マイノリティの名前だけあげつらうのも気が引けるので、マジョリティの名前もあげておくと、性的指向が異性に向いている人たちのことを「ヘテロセクシュアル (異性愛者)」、からだの性別と性自認が一致している人たちのことを「シスジェンダー」といいます。

トランスジェンダーにとっては、からだの性別と性自認が異なるので、自分が「ありのまま」に生きようとする、性別移行が必要です。レズビアンやゲイの場合は、たとえば、異性と結婚をすることがあたりまえの社会だと、同性同士のカップルは「異常」だとレッテルを貼られたり、暴力にさらされたりすることもあります。しかし、性的指向は外側からはわからないので隠して生きることも可能です。

マイノリティ (少数者)		マジョリティ (多数者)
<u>レズビアン</u> (女性同性愛者) <u>ゲイ</u> (男性同性愛者) <u>バイセクシュアル</u> (両性愛者)	性的指向	<u>ヘテロセクシュアル</u> (異性愛者)
<u>トランスジェンダー</u> (からだの性別と性自認が一致していない人びと)	性自認	<u>シスジェンダー</u> (からだの性別と性自認が一致している人びと)

■あるケースから

わたしが活動のなかで出会ってきた人たちのなかで、「ありのまま」に生きることができずに葛藤する人たちは、性的少数者だけではありません。周囲の人たちもまたちがうかたちで苦悩しているケースがあります。あるイベントで子育て中の「お母さん」に出会いました。かのじょはグループディスカッションでこんなことを話しはじめました。

10年ほど前に自分は男の子を産んだ。しかし、最近になって、その子が「自分は女の子だ」と言いはじめた。テレビでもいろんな人たちが登場するようになったし、何よりも自分にとって子どもは大切な存在なので、受け入れてあげたい——笑顔で語る

かのじょは、とても理解のある「お母さん」のように思えました。しかし、ほかのトランスジェンダーの話を聞いているうちに、かのじょに変化が起ころいはじめたのです。じつは、受け入れることがどうしてもできない。できることならば、もとの「男の子」に戻ってほしい。おばあちゃんやおじいちゃんにも「あなたの育て方が悪いのだ」と責められる。学校の先生にも、「ママ友」たちにもどのような反応があるのか怖いので話せずにいる、と。目の前の現実と向き合うことができず、週に何度か、記憶がなくなるくらいにお酒を飲みに出かけるそうです。そうして発散している日々だということをお話してくれました。

■視点を变える

この「お母さん」が「ありのまま」に生きるためにはどうすれば良いのでしょうか。自分は女の子だと思っている子どもが「男の子」に戻れば良いのでしょうか。しかし、それでは子どもの「ありのまま」が阻害されてしまいます折り合いがつかないケースです。

少し視点をかえてみると、ヒントが見えてきそうです。かのじょは誰にも相談できず、酔っ払うことで現実逃避せざるをえない日常を抱えていました。なぜ、「息子」が「娘」になることでそんなに苦悩しなければならないのか。なぜ、ほかの家族から責められなければならないのか。なぜ、誰にも相談できないのか。それは、周囲の人たちに、からだの性別と性自認は一致してなければならない、という思い込み（偏見）があるからです。そこから外れるのは“よくない”こと、“まちがった”こと。この「お母さん」は、子どもの「ありのまま」を受け入れたいという気持ちがありながら、そのような周囲の——そして自分自身の——偏見を目の当たりにして、引き裂かれる思いを抱えているわけです。

■世の中は寛容になったのか？——「ありのまま」をめざして

昨年に研究グループの性的少数者をめぐる全国の意識調査の結果が出ました。同性間の結婚を認める人たちが半数余りを示していました。また、性別を移行する人たちへの許容度も高くなってきています。では、日本も性的少数者に寛容な社会になったのでしょうか。しかし、この調査は興味深い数値を示していました。抽象的に問われるなかでは受け入れるけれど、小学校の先生や自分の子どもとして想定した場合には、ぐんと許容度が下がるという結果です。

このような、身近になればなるほど、許容度が低くなるという現象は、実際には、性的少数者が「ありのまま」で生きられない社会を生み出しています。そして、当事者だけではなく、先の「お母さん」のように、自分自身のなかに葛藤を抱え、苦悩せざるをえない状況をも生み出しています。性的少数者が安心して自分を語ることのできる「居場所」をつくっていくことが、わたしの活動の柱でもあります。同時に、性的少数者の人権が認識されればされるほど、先の「お母さん」のように、周囲の偏見に語る場を見つけられなかったり、また、差別してはいけないという思いから自分の葛藤を語れなかったりするケースもあります。そのような意味で、身近に性的少数者のいる人たちにも「居場所」が必要です。

さまざまな人たちが、それぞれの「ありのまま」をつきあわせ、折り合いをつけながら、一緒に歩いていくことのできる場所が、徐々にでも広がっていくこと。そのために、わたしたちは、時に「変わっていくこと」を求められている時代なのかもしれません。

（※この原稿は、6月5日に開催された講演内容の一部を書き起こしたものです。）

活動報告～放課後さんまクラブ～

皆様に賜りましたご支援により、NPO さんまクラブが新しい年度をスタートできましたこと感謝申し上げます。2016年度の放課後さんまクラブは定期利用者 13名でスタートしました。スタッフの入れ替わりがりましたが、子どもたちにとっての“居場所”づくりに対する想いは変わりません。さんまハウスが“ありのままにいられる”“存在を認められる”そんな“居場所”になるように子どもたちと共に日々を過ごしています。



桜が満開の水口神社におやつを持ってお花見に行きました。その後かくれんぼやおにごっこ、鉄棒など好きな遊びを楽しみました。



宿題も一生懸命します！



←
宿題の後の一番の楽しみはおやつ☆
この日はアイスクリームパフェでした！
世間話(?)をしながらゆったりティータイム・・・
「毎日こんな豪華なおやつやったらいいのに～」と話していました。



→
この日のおやつはたけのご飯でした。
スタッフが採ってきたたけのこを剥くお手伝いをしました。「僕も採りにいきたい!!」とその日から毎日山へ・・・
たけのこは成長してほとんど竹になっていたの、採るのは断念しました。
結果はどうであれ、何かを“したい”“やってみたい”“できた”“できなかった”の気持ちに少しでも応えられるよう、様々な経験を子どもたちができるよう、スタッフも取り組んでいきたいと思ひます。

どろどろやびちゃびちゃ、さらさらなどの色々な感触を一度に味わえる砂場遊び。山をつくって穴を掘って水を流して協力しながら・・・
(してないことのほうが多い?)
「こっち入ったらあかん！」
「こうやってしよう!!」
「ごめん、入ってしまった」
同じ空間での遊びなので喧嘩も多々ありますが・・・その関わり合いも大切だと思います。



カブラで町をつくったよ！

活動報告～土曜さんまクラブ～

4/9 「ホットケーキタワー」

今回で3回目のプログラム!まな板に穴を開け、シュラスコの剣を固定し自立を目指しましたが・・・高さ80センチを超えるとぐらぐら!完成したホットケーキは分解しみんなでおいしくいただきました!!



4/30 「いろいろな饅頭づくり」



さんまクラブの得意分野「小麦粉料理」!
強力粉、薄力粉、砂糖、イースト、BKパウダー、ラードをこねて生地づくりから。包むのは難しかったけど、みんな真剣で、料理人の顔つきでした!

4/16 「看板づくり」

さんまハウスに看板がない!ということに気づき、毎年していたプログラム「大きなキャンバスにお絵かき」を少し変更しみんなで看板を作りました!水口公園(児童公園)からもみることができます。



5/14 「科学実験」



ジュースに粉々に砕いたドライアイスを入れるとシャーベットになったよ!

スライムも作りました!

5/21 「光る泥だんご」

- ・土に親しむ ・ミクロの世界に目をむける ・手先の感覚をつかう
 - ・一人でじっくりひとつのことに取り組む ・でもみんなで輪になり花が咲く
 - ・こわれたときの気持ちをみんなが体験できる ・奥が深いので、大人になっても楽しめる
- 泥だんご作りは奥が深いですね！！



5/28 「石釜ピザ」

生地を伸ばしピザソースを塗り好きな具材でトッピング★
その後は石釜で焼きました。本格的なお店の味にみんな大満足でした！



6/11 「児童公園でひたすら遊ぼう！」

土曜さんまではいつもスタッフがプログラムを決めておこなっていますが、子どもたちはその後の自由遊びの時間が大好きです。「ただひたすら好きな遊びを楽しむだけ」の日があっていいのではないかとこのプログラムを行いました。児童公園を借りてボールや虫取り網、おやつや飲み物を持ってみんなで出発！！

ドッジボール、キックベースボール、ザリガニ捕り、ブランコ、滑り台、水遊び・・・みんな思い思いの遊びを思う存分楽しみました。「もう帰るの？」「まだ遊びたい」と子どもたちはとても楽しかったようです。子どもの遊び場が減り、ゲームやテレビをみて過ごすことが増えている現在、子どもの笑顔を見てやっぱり外遊びはいいなあと感じました。子どもらしい素敵な笑顔がたくさんみられました！！



6/18、25のプログラムは次回秋号のニュースレターでお知らせいたします！

合わせて7/25～8/31の夏休みさんまクラブの報告もいたしますので楽しみに★

2016年度会費納入者・寄付者氏名（敬称略、50音順）3/15～6/17

◆正会員受取会費

赤穂政憲、石田原さやか、石塚節子、入江慶、上田俊子、
 鶴飼典子、大川清、岡部智光、奥山栄一、大谷和雄、
 片岡公子、片岡自由、片岡広明、上村万里子、川上幹太、
 川上信、川口義彦、木村和広、寒川公子、所司弘造、
 菅恒敏、谷涵、谷村徳幸、谷村耕太、千葉宣義、
 津田智恵子、中村深鈴、西村二郎、西本忠義、平野明子、
 福澤祥、福永智子、堀江有里、村田敏、森美佐子、
 守岡英子、守岡健雄、安田和人、柳谷舟子、山田哲史、
 横田明典

◆賛助会員受取会費

東昌吾、板垣弘毅、稲村守、大谷元宏、小田原緑、
 川島洋一、北尾茜、北尾弘汰、北尾貞弘、北垣景子、
 北脇昇、木下栄美子、竹内宙、田村信征、中井正子、
 藤岡正人、藤田結香、宮田誉夫、宮田登貴子、森田ヤス子

◆受取寄付金

石田輝美、板垣弘毅、鶴飼典子、大川大地、千葉宣義、
 小田原緑、片岡公子、川上信、谷村耕太、谷村徳幸②、
 中井正子、西本忠義、日本基督教団京都教会、
 日本基督教団京都教会・子どもの教会、日本基督教団草津教会、
 日本キリスト教団伏見教会・子どもの教会
 橋本小与里、水口教会、水口教会・子どもの教会
 宮田誉夫、宮田登貴子、町内会匿名氏

みなさまのご支援、ご協力に心より
 感謝いたします！

編集後記

- ▲ニュースレター「さんま」の第8号（2016年夏号）をお届けいたします。
- ▲今回も当法人監事の川上幹太さんの4コマ漫画、当法人理事の堀江有里さんによる連載『居場所』を掲載させていただきました。お二人とも忙しい中ご尽力くださりありがとうございます。
- ▲今号は先の特集と、放課後さんまクラブ・土曜さんまクラブの報告を掲載しています。日々の活動の様子を知っていただけたらと思います。どうぞお読みください。
- ▲みなさまのご支援とご理解、お支えを頂いてなんとか現在に至りますが、まだまだ私たちの力不足により、大変厳しい財政環境が続いております。それ故今回「夏期献金のお願い」を同封させて頂きました。今後ともより一層のお力添えを、何卒よろしく願っています。
- ▲厳しい暑さの毎日ですが、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。（夏）

ぼくらサンマーズ がわがみ がんば 8



NPO さんまクラブ

理事長：谷村徳幸 スタッフ：谷村耕太（施設長）、廣田夏実（現場主任代理）、
 満田寿美子（事務局長代理）

〒528-0028 滋賀県甲賀市水口町梅が丘 5-2

TEL：0748-76-3414 Fax：0748-76-3414

E-mail：3ma.club@gmail.com

ホームページ：<http://3ma-club.com/>

郵便振替口座

00910-7-202663

「特定非営利活動法人さんまクラブ」